

ひょうご

県知協

NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行 一般社団法人

兵庫県知的障害者施設協会

〒651-0062

神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1

兵庫県福祉センター5階 502 号室

TEL (078) 862-6026

FAX (078) 862-6082

E-mail: hyogo-kenchikyo@dance.ocn.ne.jp

発行責任者 松 端 信 茂

印刷所 交友印刷株式会社

就任のご挨拶

一般社団法人 兵庫県知的障害者施設協会 会長 松 端 信 茂



今年度から、ご就任以来 5 期 10 年間にわたり会長職を務められました、偉大なる蓬萊会長の後任として会長職を務めさせていただくことになりました。蓬萊会長はじめ敬愛する歴代会長の皆様、会員皆様のそれぞれの時代背景の中で、熱き想いと弛まぬ実践の積み重ねで、築き上げてこられた歴史の重みと確固たる実績の兵庫県知的障害者施設協会での重責に身の引き締まる思いをいたしております。浅学非才の身ではありますが、皆様のご理解、ご支援、ご教示をいただきながら、兵庫県の知的障害者福祉の向上と協会の更なる発展と先輩皆様から引き継がせていただくバトンを次の世代にしっかりとつなぐことができるように身を尽くす所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

このたび会長職を拝命するにあたり、平成 25 年 5 月に発行されました、兵庫県知的障害者施設協会 50 周年記念誌「50 年の軌跡」と平成 27 年 7 月発行の日本知的障害者福祉協会 80 年の歩み「年表でつづる知的障害福祉（愛心園福田和臣理事長が編集委員長、前サポート編集委員長）」を改めて、読み返させていただきました。どちらの記念誌も、協会設立前史からのわが国の福祉の軌跡、社会の出来事における世界史、日本史年表と合わせて、協会の歩みがみごとに編集されています。また、歴代会長様、関係先生方の寄稿文には、施設福祉草創期から措置制度時代、現行法まで、その時代、制度下での取り巻く状況と取り組みが端的に語られ、現行法下での課題や問題点なども含めこれからの方向性を示唆いただいております。

少し、内容にふれさせていただきますと、設立元年となった昭和 37 年 10 月に開催されました、「第 1 回精神薄弱児福祉大会（当時の用語）」が現在の関係 7 団体による「福祉の集い」に、翌 38 年 10 月には、今年度山口県で 56 回目を数える全国知的障害関係職員研究大会が「第 1 回全国精神薄弱施設研究協議会」として、昭和 42 年には、「第 1 回施設親善駅伝大会」が開催され、この駅伝大会が施設親善競技大会を経て、ひょうご・ゆうあいスポーツ大会、全国障害者スポーツ大会へと発展していくことになります。措置制度時代の象徴的行事として県下の全施設が参加し、明石競技上で行われていた、施設親善競技大会、職員親善バレーボール大会は、施設対抗の真剣勝負で白熱した熱戦が繰り広げられ、たいへんな盛り上がりを見せていました。今では、このような親善大会はもとより、措置制度時代の施設を知らない職員の方が多くなってきているのではないのでしょうか。

未曾有の大災害阪神淡路大震災で、最も大きな被害を受けられたのは、当時の堺執会長の施設三田谷治療

教育院でした。施設協会の事務局も三田谷治療教育院におかれており、一時、事務局機能を失いましたが、普段から会員相互の連携が図れていたため、愛心園（福田園長）が事務局代行となり、加盟施設による「災害対策本部」が立ち上がりました。「距離や困難さをいとわず、自ら支援を申し出され、義援金に協力し、救援物資の提供に力を貸して下さりました。直接は何もできないから心を込めた祈りが届けられました。何よりの励みになりました。（堺会長記録）」この感謝の気持ちが震災積立金となり、みつみ福祉会婦木治理事長（元施設協会会長）がまとめられた、「全国、都道府県、地区協会の災害対策組織図」、「地震発生からの支援形態」のスキームがモデルとなり東日本大震災、その後も頻発する自然災害の救援、支援活動へとつながっていきます。

法制度に関してましては、協会の『20 年記念誌』に「入所者のケアができる職員の資質の向上」、「入所者の全生涯にわたる障害の変化とニーズの多様性に対応したケア」、「今日の施設の当面する問題として、高齢化、重度、重複障害、諸機関、諸施設関係機関、医療関係機関、地域社会ケアと施設は緊密な連携網を一日でも早く」、等々と提言されていて、まさに、今日の重点課題を浮き彫りにしています。措置制度時代の昭和 40 年代からの先進的な考えによりやく時代（法制度）が追いついてきたと言えます。

会長職を務めさせていただくに当たり、私なりの印象深い協会のあゆみをまとめさせていただきました。まとまりのない整理になり申し訳ございませんが、両編纂史は、協会施設関係皆様の不変の思いと、知的障害福祉を知る上での貴重な資料文献として、会員皆様もぜひご活用されることをお勧めいたします。

近年の蓬萊会長時代には、たいへんご苦勞を伴う中で協会の法人化を果たしていただき、県の福祉センター内に事務局の設置、安定した運営に向けての会費値上げを断行していただきました。また、本年 10 月から、堺先生の協会、後進を思う温かいご配慮により、三田谷治療教育院の佐伯肇氏（法人本部経営企画室副室長兼三田谷学園総務）に事務局長に就任いただき、盤石の体制でスタートをさせていただいております。

制度改革から 15 年目を迎えますが、不安定な状態で、誰もが安心して利用できる制度となるにはまだまだ課題が山積です。施設協会は、「お互いに支え合いながら、相互に高め合っていく」関係性の中で、「より良い支援を施設協会全体で実践して、本来あるべき支援のあり方を具現化すること」を基本に、関係皆様との情報交換、意見交換、活発な議論を通じての意見集約を行い、「点ではなく面で取り組むネットワーク」、「垣根を越えた人と人をつなぐヒューマンネットワーク」の構成を目指し、オール兵庫、チーム兵庫を合言葉に協会組織の一層の機能強化と新たな知的障害福祉の創造に向けての取り組みを進めたいと考えています。

副会長、役員を始めとする現スタッフは、協会の歴史と熱い思いを受け継ぎ、活発に地区活動、部会活動等に取り組んでいます。会員一同、関係皆様方の一層のご支援をお願い申し上げまして、就任のご挨拶とさせていただきます。





神戸市知的障害者施設連盟

事務局長 正 心 徹

今年度の神戸市知的障害者施設連盟の動きは、現行体制の 2 期目（4 年目）となり、47 事業所でスタートしました。

運営状況としましては、さらなる連盟機能の具体化を図るために、「入所部会・通所部会」を随時開催し、課題抽出と事業所間連携による、解決策を検討しています。そして、企画・運営の主体である役員会においては、事業調整のための三役会（会長・副会長・事務局長で構成）を随時開催しつつ、今年度におきましても、制度学習や事業所見学等の研修事業、障害者スポーツへの協力事業を行っています。

また、大都市社会福祉施設協議会、市会議員団等との意見交換を行って、制度政策への要望活動等、順調に進めています。

さらに、年数回開催します施設長会では、毎回、行政等のゲストをお招きして学習・意見交換を行っています。そこで得られた情報は連盟で共有し、より良い福祉サービスに繋げています。なお、関連情報は、リニューアルしましたホームページに順次掲載しています。

神戸地区職員部会の動きについては、以下の一覧をご参照ください。

1. 全体報告

- (1) 神戸市知的障害者施設連盟役員会、施設長会への出席（4/27、7/31）
- (2) 県知協 定期社員総会、支援スタッフ委員会への出席（5/28、6/26、9/27）
- (3) 神戸市知的障害者合同レクリエーション会議への出席（8/24）
- (4) 「共に歩む会」引率チームのサッカー大会、ソフトボール大会への送迎広報
- (5) 神戸市退職手当共済・福利厚生事業 運営委員会への出席（8/31）
- (6) 第 18 回全国障害者スポーツ大会 神戸市選手団結団式への出席（9/14）
- (7) 神戸市民福祉大学ライブラリーモニター会議出席（9/19）
- (8) 職員部会担当会議〈総会〉及び研修会（5/25）

講演：神戸市 保健福祉局 保健福祉部 障害者支援課 自立支援係

相談支援・虐待対策担当係長 渡邊 洋子氏

テーマ：「神戸市の障害者福祉の施策・今後の展望、施設職員に期待すること」

- (9) 予定：兵庫県知的障害者施設協会 中堅職員研修参加（11/2）

2. 研修委員会

- (1) 9 月 3 日 看護師、栄養士、支援員合同研修会

場所：社会福祉法人 神戸自興会 特別養護老人ホーム「萬寿園」

内容：施設見学、質疑応答、情報交換（21 名参加）

- (2) 予定：

①看護師研修会は内容、日程調整中

研修テーマ「未定」

②地域生活チャレンジ研修（11 月開催）

③栄養士研修会開催予定（2 月開催）

研修テーマ「（仮題）非常食、防災食について学ぶ」

3. スポーツ委員会

- (1) 4 月 8 日 第 18 回全国障害者スポーツ大会福井大会神戸地区ボウリング選手選考記録会

(2) 6 月 6 日 ♪ 神戸地区ボウリング選手選考記録会 代表 2 名が決定

(3) 7 月～10 月 神戸地区ボウリング代表選手強化練習 (計 18 回実施)

(4) 予定

① 10 月 13 日～15 日 第 18 回全国障害者スポーツ大会 (福井大会) ボウリング神戸地区代表選手引率

② 11 月 4 日 職員による親睦草フットサル大会

③ 2019 年 3 月 9 日利用者によるリレー大会 (絆リレー) 開催

阪丹但地区の報告



阪丹但地区会長 森 康 祐

阪丹但地区は役員改選があり、長年に渡り役員を務めていただきました三村副会長 (春日学園) をはじめ、洲戸監事 (ななくさ清光園)・屋鋪職員代表 (沢谷荘) の後任として、福西監事 (ななくさ清光園)・関会計 (春日学園)・立野監事 (協同の苑くすのき)・西山職員代表 (三田こぶしの園) の新役員が就任されました。今までよりも役員が 1 名増えての 9 名となり、研修企画の他にも様々な検討課題や兵庫県知的障害者施設協会の各分会・各委員会との連携強化にも努めていく体制作りとしています。



新役員を迎えての平成 30 年度の事業の進捗状況ですが、年 5 回の研修会のうち 2 回の支援員研修会をすでに実施しています。6 月 8 日に流通科学大学教授の岩崎久志氏による「メンタルヘルスについて」、9 月 11 日にはこころのサポートあおいくま代表の梶原由美氏を迎えてのアンガーマネジメント (第二弾)「人は変わる一緒なら」の研修会を実施しています。どちらの研修も昨年度の研修受講者アンケート集計をもとに研修テーマを絞り込み、ご多忙のなかスケジュール調整していただいた各専門分野の講師を招いただけに多くの方に納得していただける研修内容になっていました。次回は中堅・管理職研修会として、11 月 13 日に特定社会保険労務士の山本日出男氏による「労務管理について」を三田市総合福祉保健センターで企画しており、1 月に「仮称：ダウン症研修」、2 月以降に阪神福祉事業団との共催による公開事例発表会も予定しています。企画している研修会は福祉・介護従事者キャリアアップ研修事業補助金を活用していますので、無料でできるだけ多くの方に受講していただけるようにしております。案内が届きましたら是非ご参加ください。

次に今年度から兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会の 4 競技 (陸上・サッカー・ソフトボール・バスケットボール) の各競技責任者を阪丹但地区会員の法人単位でグループに分かれて持ち回りをしています。例年にない取り組みにもかかわらず、各法人・事業所に協力していただけたことで 5 月末にありました第 12 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会も各競技による多少の課題はありましたが無事に終了しており、次年度に向けてのよいスタートができました。これを機に地区会員の各施設・事業所の交流も深まり、今後も継続的に大会の歴史や社会的な意義を理解したうえで継続的に運営できるよう努めていきます。



 播淡地区の報告

播淡地区職員代表者会長 森 本 隆 義

播淡地区は今年度も伝統である「スポーツ事業」「研修事業」「研究事業」「文化事業」の4事業を会員施設・事業所に協力を得ながら、企画・運営を行っています。平成30年度の各事業の進捗状況を報告させていただきます。

① スポーツ委員会

平成30年5月25日（金）加古川運動公園陸上競技場にて、参加者876名の参加を頂くなか第30回ばんたん親善運動会を開催致しました。当日は天候にも恵まれ、怪我もなく参加された利用者の皆様が楽しんで頂ける運動会となりました。課題として兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会が、同時期の5月下旬に開催されたことや、利用者の高齢化等により参加者が昨年より80名減少したことから、開催時期や参加しやすい種目の選定について今後検討していくこととしています。

② 研修委員会

平成30年7月6日（金）に高砂市のユーアイ帆っとセンターにて第1回職員研修会を開催する予定でしたが、兵庫県全域で台風による特別警報と豪雨災害により当日に中止を決定しました。直前の中止によりご迷惑をおかけした施設・事業所にはお詫び申し上げます。

振替の研修会を平成30年9月19日（水）に高砂市青年の家にて開催しました。講師として高砂市レクリエーション協会 会長 梶原 好博氏をお招きし、「利用者支援におけるレクリエーション」という内容で実施しました。レクリエーションを実技で学べる数少ない研修ということもあって、参加者68名と播淡地区外からも多数ご参加頂き、ありがとうございました。新聞紙を使った遊びや牛乳パックで創作活動や音楽に合わせた踊り等、バリエーション豊かな内容で参加者が笑顔いっぱいの研修となりました。

第2回目は平成30年11月9日（金）に第1回に続いて高砂市レクリエーション協会 会長 梶原 好博氏をお招きし、第1回と違ったレクリエーションの内容で実施予定ですので、是非ご参加ください。

③ 研究委員会

平成30年8月29日（水）に姫路商工会議所にて第32回施設長・職員合同研究会を開催致しました。昨年度、試験的に導入した「日帰り型研修」については、高評価だったため、今年度も「日帰り型研修」を実施し、関西福祉大学社会福祉学部 学部長 中村 剛氏にご講演と一日の研修進行をお願いしました。午前の講義では、「専門性と経営管理」をテーマに、制度改革・報酬改定等に関する講義を受け、午後には「地域共生社会における正義」という福祉哲学に関する講演をお聞きしました。また、グループディスカッションでは、障害者を受容することの真の難しさについて考える機会をいただくとともに、厚労省が提起する「わが事、丸ごと」をどう考えるかについても真剣に考える機会をいただきました。

④ 文化委員会

平成30年11月22日（木）姫路文化センター 大ホールにて第27回ばんたん・ゆうあい文化祭を開催予定です。参加者は約1,000名もの大人数になる予定ですが、これまでの実績や昨年度の反省を踏まえ、楽しい一日となるよう企画・準備を進めております。

以上、播淡地区職員代表者会4委員会の事業の進行状況として報告させていただきます。

平成 30 年度 生産活動・就労支援部会研修

生産活動・就労支援部会長 古川 勝

去る 10 月 4 日、神戸しあわせの村・野外活動センターミーティング室にて、「平成 30 年度 生産活動・就労支援部会研修」を開催しました。参加は 29 事業所 35 名となり、予定の 30 名を上回る参加となりました。午前にはユニバーサル推進課 障害者就労支援班 主任の椋本氏及び NPO 法人兵庫セルフセンター 事務局長の脇原氏の講演をいただき、午後にはグループディスカッションを 4 グループに分けて実施しました。

就労 B を中心とした工賃向上がテーマであり、椋本氏には基本的な事業の役割から今回の法改正のポイントについてのご講演をいただきました。厚労省の資料以上の内容や現場行政の担当からのお考えを聞くことができ、非常に興味深い学びとなりました。続いての脇原氏のご講演では県の委託を受けて工賃向上に取り組んでいるセルフセンターの事業内容のご紹介とともに、具体的にセルフセンターの関わった兵庫県内の工賃向上の取り組みから他府県の魅力的な取り組みにまで話を広げいただきました。写真を多用したイメージの伝わりやすいスライドは非常にインパクトがありました。脇原氏から兵庫セルフセンターの存在についてご質問されたところ、参加者の半分程度しか挙手しないという認知度の低さに驚きました。こういった事業所外の重要な情報の周知や理解は管理者に期待したいところです。脇原氏のご講演で印象に残った言葉は「セルフセンターの事業は我々セルフだけでは成り立たない。生産活動に取り組んでいる事業所とともに取り組んで初めて成り立つ事業である」と。この研修を通して今後、セルフを活用した取り組みや事業所同士の連携による事業などが進んでいくことを期待したいところです。

午後のグループ討議は各事業所の工賃向上における課題を出し合いながら意見交換をしていただき、予想以上に盛り上がりました、各事業所がそれぞれの課題を抱えながらも前に進もうという熱意を感じるグループ討議となりました。

今回の報酬改定で就労継続 B 型については平均工賃に基づく基本報酬の設定となり、平均工賃の低い事業所は経営にダイレクトに影響のある形となりました。このいきなりの改定は厳しいものがあり、こういう根本的な改定を行う場合には経過措置があるべきだと考えます。しかしながら現実には現実として対応していかなければならないことです。

部会の活動として、継続して情報交換の場を持つことや外部のコンサル（セルフを含む）を導入してのマーケティングや商品開発の勉強会なども考えられます。これらは共同で行うことにより事業所が単独で行うよりも費用を安く抑ええることができます。そしてそれぞれの持っている知識を共有することでさらに取り組みの質を上げられます。さらに具体的な生産活動では、生産・加工・販売を分担するなど、各事業所の強みを生かし、弱い部分を補った形での取り組みも可能ではないでしょうか。一方で努力しても改善できない課題については県知協で議論・取りまとめしていただき、知福協の政策提言に反映してもらうことにも取り組んでいきます。

最後に、利用者の「はたらく」を通して社会参加を促進していくこと、生産物や自主製品の価値を上げて社会に出していく等、就労継続支援 B 型に限らず生産活動に携わっている利用者の為に部会として取り組んでいきます。参加した事業所には研修に対しての意見や、グループ討議の時間で話すことのできなかったこと等、事務局に意見を寄せてください。今回参加できなかった事業所についても、作業や工賃についての悩みやどんな研修を希望するのか等の意見を寄せていただければ幸いです。



平成 30 年度福祉の集い

事務局長代行 大西 博之

平成 30 年 9 月 26 日、知的障害児（者）と重症心身障害児（者）のいのちと暮らしを守る会（通称、福祉 7 団体）主催による「平成 30 年度福祉の集い」が、神戸メリケンパークオリエンタルホテルで、「障害者に寄り添った支援のあり方とは」をテーマに、開催されました。本年度は、各団体から計 350 名の方々に参加いただき盛大に開催されました。

開会式には、兵庫県健康福祉部障害福祉局長の羽原好一様、神戸市保健福祉局障害福祉部長の山端恵美様をはじめ、多くのご来賓の方々にご出席いただきました。皆様、ご多忙の中誠にありがとうございました。

午前中は、武庫川女子大学文学部教授の松端克文氏の基調講演でした。「障害のある人たちが自分らしく暮らしていくための環境整備」と題して、外国の障害者施策の例や、日本における地域福祉の例を紹介しながら、地域共生社会のありかたを探るという内容でした。障害者福祉の分野では、「地域社会」というワードが、かなり以前から注目されてきましたが、現在でも施策や思考の主流になりきれていません。近年、さらに踏み込んだ「共生社会」という考え方が、福祉の主流となってきたことを実感しました。また、個別支援計画の考え方という内容も話され、その重要さを改めて認識できました。今後は、施設も、利用者も、そして私達自身も、地域というコミュニティの中で、共生していくことが重要であると思いました。

午後からの事例報告については、まず、尼崎市手をつなぐ育成会まんまるはーとの皆様から、知的障害の疑似体験と称して、知的障害とはどういう障害なのかを実演付きで解説していただきました。知的障害は身体障害等と比較して体験しにくい、わかりにくい障害だと言われますが、非常に工夫を凝らしたプログラムで、知的障害のある方々がどのようなところで困っているのかということが体験できました。

続いて報告のあったあいすくりーむの家については、本年 4 月に重度の方々対象のグループホームとして開所され、医療的ケアが必要な方々も利用できるよう看護師を 24 時間体制で配置しておられます。看取りの事例も報告があり、重度の方が地域で生活することの大切さが伝わってきました。入所施設が建設できなくなった現在、グループホームが入居型サービスの主流となっています。医療的ケアをどのようにシステム化していくのか、これから開設するグループホームの基本となっていくように思いました。

最後は、リレくらしサポートセンターから、尼崎市の地域生活拠点についての報告でした。当センターは尼崎市から「障害者安心生活支援事業」を受託し、相談、緊急時対応をはじめ、地域のサポート体制づくりまで幅広く活動されている様子が報告されました。地域で生活されている障害者にとって、一番の心配は、介護者の病気等の緊急時にだれがどのようにケアしてくれるのかということです。これは、今も昔も変わっていません。この施設というピンポイントの支援も重要ですが、地域のネットワークを駆使して支援していくことがより安心感につながっていくのだということが理解できたように思います。

今回は、多方面からの報告がありました。言い尽くされたことばですが「障害があっても住み慣れた地域で、その人らしく生き続けること」が、障害者福祉の究極の目的です。そのために、支援者として、親として、行政として、やらなくてはならないことが理解できた貴重な集いとなったと思います。



平成30年度 兵庫県知的障害者施設協会 人材確保委員会研修会

人材確保セミナー

～ヤバイと感じたその時に～



売り手市場の中
なぜあの法人の
ブースには学生
が並ぶのか!?

■日時 2018年 **12月12日** (水)
14:00～ (受付13:30～)

■会場 兵庫県福祉センター ■参加費 1,000円

第1部：講演

人材から人財へ ～人材確保の勝ち組モデル～

14:00～15:00

講師



原田 旬哉 氏

關田学園女子大学 人間教育
学部准教授、社会福祉士。
19年間、児童養護施設で勤務し、主任指導員、家庭支援専門相談員を経て現職。日本児童養護施設学会理事、一般社団法人「児童養護施設団体ともに」理事、「人間と性」教育研究協議会全国児童養護施設サークル幹事
著書：図解で学ぶ保育 社会的養護の現場

第2部：シンポジウム～人材確保改革～

コーディネーター：福成金 総務部 課長 島 祐貴 氏

ヤバイと感じた時から 我々がとるべき行動

15:10～16:00

登壇者



村山俊宇 氏

いたみ杉の子
施設支援部 部長

宮崎 泰生 氏

明桜会
木の根学園 管理者

川島 直子 氏

陽気会
おかば学園 施設長

第3部：テーブルディスカッション

情報交換 16:00～17:00

定員

先着50名様

●お問い合わせ

兵庫県知的障害者施設協会 人材確保委員会

宝塚さざんか福祉会 辻井（つじい） TEL.0797-83-6544

編集 後記

県知協ニュースの発行が遅くなり申し訳ございません。次回は予定通り3月には発行しますので何か掲載してほしい部会・発表・委員会の活動などございましたらお知らせください。また県知協 HP に掲載依頼もお待ちしております。

今回、兵庫県知的障害者施設協会の事務局の紹介をさせていただきます。

当事務局は兵庫県神戸市中央区坂口通 2-1-1 兵庫県福祉センター5階にあります。

写真は事務局長の佐伯肇さん、事務員の美船玲子さんです。

皆様今後とも宜しくお願い致します。



(広報委員長 澤村 友也)